

- 問 1 児童、幼児の乗り降りのため停止している通学、通園バスの側方を通過するときは必ず後方で一時停止して安全を確かめなければならない。
- 問 2 大型免許を受けていれば大型特殊自動車を運転することができる。
- 問 3 トラック運転者は、緊急輸送など「ライフライン」を担っていることを自覚し、社会的な使命を果たさなければならないことを認識する。
- 問 4 トレーラの「プラウアウト現象」は、カーブなどでトラクタの前輪がロックした場合などに、トラクタとトレーラが一直線になり、車線をはみ出してしまう現象である。
- 問 5 大型免許を取得しようとする者は、中型免許取得後、3年以上の運転経験がないと受験資格がない。
- 問 6 最大積載量2t車は、普通免許では運転できない。
- 問 7 事業者が行う事故惹起運転者に対する特別な指導については、当該交通事故を引き起こした後、再度トラックに乗務する前に実施するが、やむを得ない事情がある場合には、再度乗務を開始した後2ヶ月以内に実施する。
- 問 8 輸送する「危険物」とは、消防法第1類から第6類までの、酸化性固体、可燃性固体、自然発火性物質及び禁水性物質、引火性液体、自己反応性物質、酸化性液体等を言い、危険物取扱者免状が必要です。
- 問 9 中型自動車とは、車両総重量7, 5t以上11t未満、最大積載量4, 5t以上6, 5t未満、乗車定員11人以上29人以下の自動車をいう。
- 問 10 高速走行時に、タイヤの空気圧が高過ぎると、スタンディングウエーブ現象が発生しやすい。
- 問 11 過労運転防止のため、一日の運転時間は、2日平均で9時間以内、一週間の運転時間は、2週間ごとの平均で44時間以内とされている。又、一日の拘束時間は原則として13時間以内である。
- 問 12 速度が3倍になれば、衝撃力は約9倍になる。
- 問 13 ガソリンスタンド等、道路に面した場所に入出入りするため、やむを得ないときは歩道や自転車道を横切ることができる。
- 問 14 自動車を後退させるときは、シートベルトの着用免除規定に該当する。
- 問 15 高速自動車国道の本線車道が往復の方向別に分離されていない区間では、標識などにより最高速度が指定されていなければ、一般道路と同じ最高速度となる。
- 問 16 交差点付近において、緊急自動車が接近してきたので、徐行して進路を譲った。
- 問 17 貨物の配達のために必要で、警察署長の許可を受けた車は、歩行者用道路を通行できる。
- 問 18 時速120Kmで走行の特急電車が非常ブレーキをかけて停止するまでは、550mを要する。
- 問 19 運転免許停止中の運転は、無免許運転には該当しない。
- 問 20 フェード現象やペーパーロック現象の多くは、長い上り坂で起きている。

- 問 21 連続4時間運転した場合は、30分以上の非運転時間をとらなければならない。
- 問 22 乗車定員14人のマイクロバスは、準中型免許で運転できる。
- 問 23 第一種普通免許で、タクシーを修理工場へ回送するために運転した。
- 問 24 交差点の中で警察官が、「進め」の手信号を出していたが、信号機が赤色の灯火だったので交差点の手前で一時停止をした。
- 問 25 自動車運送事業の用に供する自動車の車検証は、当該自動車又は当該自動車の所属する営業所に備え付けなければ、運行の用に供してはならない。
- 問 26 トラックによる人身事故の約半数は、追突事故である。
- 問 27 貨物自動車運送事業に携わる輸送者(運転者)は、運行前、途中、運行終了時には、点呼を受け、報告することが義務づけられている。
- 問 28 飲酒運転の怖さは承知のとおりであるが、例えば日本酒1合を摂取した場合、これを体内で分解処理するには、約4時間かかると言われております。
- 問 29 物流を支える事業用トラックは、日本経済を支えているといっても過言ではなく、国内の貨物輸送の約9割は、トラック輸送が担っている。
- 問 30 自動車を運転する場合、交通ルールを守ることはもちろんだが、他者(車)を思いやる気持ち、譲り合う気持ちが、事故防止の重要ポイントとなる。